

平成 30 年後期

備忘録！！

9 月 6 年ぶりの登山

長野県・硫黄山・富士見高原・
赤岳鉱泉から



仲間自治会のきんぎょ
委員長 高田 寧帆
今年の登山合宿は、6年ぶりに二泊三日でいってききました。はじめの三つの分宿でしたが、大きな混乱もなくすべしとができました。赤岳山荘に十年ぶりとなりました。赤岳山荘に十年ぶりのみなさんにあえてよかったです。今日は五十四人中、十四人の仲間がはじめての合宿をけいけんすることができた。天気にもめぐまれ、いい合宿でした。帰ってこれた。

仲間自治会 登山実行委員長 高田 寧帆

入所2年目 川野 羽音

あかだけせんそう
川野 羽音
私は、順子さんと
同じ部屋でした。長
近藤さん、中村さん
原さん、いきました。
みんなどアルプス一
石尺をしました。あ
風をしました。あ
いごの日に、帰りました。
くごの日に、帰りました。
した。あかだけせんそう

年内最終号に今年度半期の
備忘録を納めます。
様々な活動は、仲間がたくましく成長している様を映し出し、職員の支援の質を高める物差しとなります。

本格的な登山は6年ぶり、山小屋の生活や2000メートル級の頂上を目指すことが、初めての仲間や、職員が多くなりました。そのような中、伝統を継続することの難しさを感じた今年の登山でしたが、仲間たちのたくましさや、頑張る姿からは、学ぶことが沢山ありました。

はぐるま

No.106

2018 年 12 月 28 日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場 1-18-17
TEL 044-946-1308

登山
あかだけせんそう
行きました。水が流れて
しました。山に登り
ました。足がいたい。
つねに、またのぼる
山にまたのぼる

入所1年目 高橋 透

きょうされん全国大会 京都に参加しました

障害者権利条約を地域のすみずみに

日本が障害者権利条約を批准して間もなく5年がたちます。その間にもわが国では権利条約の謳う「インクルーシブな社会」の実現のため様々な施策が進められようとしています。今全国大会では、国連において障害者権利条約の誕生に尽力されたドン・マッケイ氏（特別委員会元議長）とマリア・ソリダード氏（特別委員会委員長）を招いたシンポジウムが開催されました。権利条約が国連で採択された瞬間を生々しくお話しされ、当時の興奮をリアルに感じることができました。改めて、この権利条約が障害者も共に生きる社会のスタンダードになっていくんだなと感じましたし、日本の施策がどこに向かっているのかを確かめる羅針盤にもなるでしょう。この観点はとても大事なことだと思います。例えば、「インクルーシブな社会」を実現するときには、はぐるまのような「社会福祉法人」や「地域作業所」は障害者と障害のない人を分ける「隔たり」をつくるものだと考えることもできます。実際にドイツではそのような観点に基づいて段階的にはありますが、

制度のこと、暮らしのことを学んできました！ はぐるま仲間自治会からの報告

障害者作業所は縮小されていると聞きます。それぞれの国にそれぞれの歴史があり、障害者福祉の積み重ねがあるので一概には言えませんが、少なくとも世界中を平和で差別がない社会にするにはどうしたらいいのか考えるうえでは、この権利条約に立ち戻ることが必要になるでしょう。

（はぐるま共同作業所 金田圭二）

きょうされん全国大会京都に参加して
私は制度の分科会に参加しました。
そこで話になったのは、
いろいろなところに遊びに行くと手帳が
使えるのに料金のところに小さく書かれています
分かります、もう少し手帳の使えるところ
を増やしてほしいと話しました。
私は行きたいところに電話して手帳が
使えるか聞く
二、車イスで移動する時に段差がある大変な
た。お店に入る時もスロープがないので難し
いところが多。電車も乗り降りが大変で
困っているという話が出ました。
三、こうきょう施設に遊びに行くと手帳を
見せているのに並んでいた人に普通服の人に
見えるときめかれと悩んでいる友達に相談
したら、キーホルダーをかばんにつけてみた
いどうかなと言われたのでためした
そうです。それから人に言われなくなった
と書いていました。
私は話を聞いて同じことで困っている
だなと思いました。

石暮由美



きょうされん全国大会京都に参加して
はぐるま仲間自治会会長 長原綾
今年は、9月21日と22日で京都
まできょうされん全国大会にさんか
しました。
分科会ではくらしとゆう
ぶもんにしゅつせきしました。
グループホームにゆうきよされ
ている人や、かぞくと一緒にす
してしる人や、一人暮らしとして
いる人などさまざまな人が
いました。
グループホームにはいろいろあり
どふはまあいんではいいな人も
おおいりました。
いろいろとしたけれど父やとい
まりがむずかしいのでかぞ
くのんからはんたいをされ
てきかない人もいました
私も、自立して10年あまりにな
ります、がヘルパーさんをつか
てがスのことやとじまりの
ことを学しゅうしてします。
これから自立をした人は、
ヘルパーさんや、かぞくや、かよつて
いる作業所のしごと員さんと
いろいろはなしをしてします
おほうこうへいけはいいと
思いました。

みんなあいがとう 収穫祭

さつまいも大ピンチ！

秋の風が気持ちよく吹くなか、今年で7回目を迎えたはぐるま稗原農園収穫祭が例年通り、十一月三日に開催されました。今年も去年に引き続き、地域のママさんたちの手による綺麗な装飾に彩られる中、仲間たちの太鼓演奏で収穫祭が幕を開けました。

今年はこれまで以上に地域に密着した形でのお祭りを目指し、お声かけを近隣に絞らせていただき、仲間たちがのんびり過ごし、食べ、歌い、楽しめるように心がけました。

さて、子供たちの楽しみであり、メインイベントの一つであるさつまいも堀体験が今年はなんと大ピンチ！十月の中旬、さつまいもを試し堀した工房の仲間、職員たちは皆顔が青ざめました。予想していないほどの大不作。まったくさつまいもができていなかったのです。

ついでに不作は想定外。原因を探り、来年以降の糧としなければなりません、とにもかくにも、今年の収穫

祭をどうしよう？

というわけで、急きょ今年は子供たちの宝探しとろんご広場を拡大開催。さつまいもを植えていた畑をほぼ全面開放し、思いっきり子供たちにとろんご遊びを楽しんでもらいました。

田園調布学園大学の学生たち、はぐるまの仲間たちが子供たちを見守りながら一緒に土と戯れる光景、時間はこれからののはぐるま工房の有り方、地域と仲間たちがつながる道の一端を示しているように感じました。



のレイアウトに知恵をしばり作成いただいた方々、仕事が終わって暗くなる中やぐらを立ててくださった地域青年会の方々、テーブル・テント等を快く貸してくださった地域自治会の方々、十三浜のわかめを通じて東北から遠路足を運んでくださった青山さん、仲間たちのご家族の方々、近隣大学の学生の方々、その他ここでは紹介しきれない多くの方々、あいがとうございました。

年に一度の収穫祭で、はぐるまは地域に支えられ、関わり暮らしていることを再確認いたします。この思いを日々の暮らしの中で忘れずに活動が続けていきたいと思います。来年以降もどうぞよろしく願っています。

(はぐるま工房 新井多佳夫)

今年も多くの方々のご協力で収穫祭を終えることができました。安心してパフォーマンスをするためのステージ作成に尽力いただいた地域の方々、畑

大変です！お店が！！

2014年10月にオープンしてから早4年、徐々に地域の方にも認知してもらい、多くの方々の協力を得ながら、ずっとお店が軌道に乗ってきました。ところが…ある日お店の室内から異臭を感じ店内を確認してみると、奥の物置扉の下から水が漏れてきていることを確認しました。



しかもその水は異臭を放っています。慌てて新聞紙で隙間を塞ぎ汚水を拭きましたが、その後も汚水は止まる気配なくあふれ出してくるのです。すぐに管理会社へ連絡！修理依頼の連絡を入れるも：到着したのが夜になってしまい、暗くて現場確認ができないまま、翌日に持ち越し。翌朝のお店は悲惨なものでした。

汚水があふれ出し2cmほど床にたまり、店の商品や備品、冷蔵庫など汚水に浸かってしまっていました。掃除をしても悪臭が取れません。その後原因を調べてもらうと、配管の問題でまた詰まる可能性があることが分かり、汚水に浸かってしまった店の状況も踏まえ、この場所での「小さなお店」の存続が難しいとの判断で、しばらく休業。

その間もいつ再開するのかの問い合わせが、近所のお得意さんからあり、「次の一手」を皆で必死に考えました。せっかく仲間が身につけたパンの技能を錆びつかせないためにも早くパンの売り場を確保する必要がある、第一作業所の前で、続「小さなお店」を始めることを決めました。

また幸い、稲田堤の「珈琲屋」さんのご厚意で店内で販売していただけることになりました。

第2作業所の店頭・花ハウスのランチにもパンを卸せることになり、すぐに以前と同じ「仲間の塩パン」を、朝から作る日常に戻ることが出来ました。

作業所の前のお店ということではまだまだ以前のようにお客様数を取り戻すことが出来ず売り上げも開店当初のころに戻ったかのように苦戦しています。

しかしその中でも以前から通って頂いているお客様がパンや野菜を求めて来店され、再開を喜んでくれている様子を目にし、小さくても、地域に認められ貢献できていることを実感しているこの頃です。

「雨降って地固まる」ように、試練を乗り越えた先により素晴らしい景色が見れると信じ、これからも前進していきます。

まだまだ整備等行き届かないところも多いですが、ぜひ一度足を運んでいただき、仲間の作ったパンや野菜など手に取って頂けると励みになりますので、今後ともご協力よろしく願います。

(はぐるま共同作業所 佐々木 綾太)